

# 会 議 録

## 1 会議名

令和2年度第14回直江津区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【報告事項】

- ・（仮称）直江津アートプロジェクトの取組について（公開）

### 【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）

## 3 開催日時

令和3年3月16日（火）午後6時00分から午後7時26分

## 4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・ 委 員： 中澤武志（会長）、青山恭造（副会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕、今川芳夫、久保田幸正、坂井芳美、竹田禎広、田中 実、田村雅春、林 昌宏、古澤悦雄、増田和昭、町屋隆之、丸山岳人、水澤敏夫、水島正人（欠席者1名）
- ・ 事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小池係長、霜越会計年度任用職員  
企画政策課：志賀副課長、海津係長

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・ 会議の開会を宣言
- ・ 上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【中澤会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：田村委員、林委員に依頼

議題【報告事項】(仮称)直江津アートプロジェクトの取組について、担当課へ説明を求めらる。

【企画政策課：志賀副課長】

- ・資料No.1「(仮称)直江津アートプロジェクト事業の概要について」に基づき説明

令和2年度、直江津区地域協議会で採択された「直江津アートプロジェクト事業」とは、別の事業であることご理解いただきたい。

今後、私どもで事業を組み立てていく際の参考にしたいので、質問や意見があれば答えられる範囲でお答えしたい。

【中澤会長】

説明に対し、質疑を求めらる。

【田村委員】

今年度、直江津区で採択された地域活動支援事業と名称は同じでも中身が違ふという話だが、中身を比べても大差が無いような気がするが、そう思うのは私だけか。

【企画政策課：志賀副課長】

双方とも現代アートを題材とした内容のイベントであり、中身は大きく変わらないかもしれない。直江津区地域協議会の皆さんが認めた事業を改めて市が支援していくようなイメージがあると思うが、地域活動支援事業で採択された事業とこれから行う事業は別のものであると認識していただきたい。ただ、採択された事業も新たな事業も地域の人の関わりによって作品を作り上げていくという点では似ている。

【磯田委員】

この事業の設定プロセスが、直江津の町の人間にとっては「晴天のへきれき」で、いきなり感が非常に強い。この事業のことを直江津のほとんどの人は知らないと思う。その事業に6,800万円も予算がついて、それを7月末からやること自体が驚きである。今年度、くらしの美術館実行委員会準備会とともにやっている「遠隔の共創」という取組も半年以上計画を詰めて、やっところまできている状況である。今年度は約300万円の事業規模だが、それが6,800万円の事業規模のものを今年の7月末に実行しようというプランではないか。こういうプランを作ること自体、市はどのようなプロセス

でどういうことを練り上げて、この事業をやっていこうと思ってこの計画を出しているのか。とても練り上げられないと思う。どこかに丸投げするか、誰かが主導をとって、その道筋の中で「市民の皆さんついてきてください」というような事業になりかねない。事業は良い事業だと思う。まちなかの回遊性をどう作っていくかは商店街のランチの割引券だけでは、なかなか成果が上がってこない中で、どのように回遊させていくか、まちの人達と交流を深めていくかは、すごく重要だと思うが、それを実現させるためにまちの人達の協力をどのように仰いで、どういうコンセンサスをとってこの事業を進めていくつもりなのかをお聞きしたい。

**【中澤会長】**

他に関連した質問はないか。

**【町屋委員】**

今の段階では予算がおっていないので、詳しいことは言えないというが、何をするのかこの資料ではわからない。企画展などと一緒で、代理店に丸投げする事業になるのではないかと思う。私たちはお客としてイベントを見に行くくらいしか参加しないだろうと思っていた。きちんと間に合うのかということと、最初に類似企画の名前が出てきたが、別物だと言いながら何でこうなるのか。スタートが一緒なのに別々にやっている。「こちらは7,000万円、そちらは300万円だが、別物だから心配しないでください」と言われても全然納得がいかない。今日は、その話だと思って臨んでいるからどうなのかと思う。もう少しわかりやすく丁寧に説明いただきたい。

**【中澤会長】**

今年度の事業と大きく違うところはどこか説明願いたい。

**【企画政策課：志賀副課長】**

現代アートに着目した点では同じ取組、イベントと思われることは仕方ない。来年度に実施する事業の背景としては、昨年（株）良品計画、頸城自動車（株）と市の3者による協定の中で、直江津の活性化という項目があり、連携してどのような取組をすすめていこうかと考えこの事業提案に至った。プロセスとしては、直江津をはじめ上越市全体のことを含めて、この地域を活性化するにはどうしたら良いかを市の方でしっかり考えながらやってきたというのが前提としてある。その中で我々が予算を議会に提案するにあたって、積算も含めて予算編成を進めてきた。

**【中澤会長】**

直江津の人達とのコンセンサスとか、いきなり感とかその辺を教えてください。

**【企画政策課：志賀副課長】**

今までお話したとおりで、我々が、まちづくりを進めるために事業を実施しようとした時に、地域の人にどうお話をしていくかは悩んでいた。まずは、しっかり予算として計上し、議会へ提案する。その上で地域の皆さんに説明していくことを考えて進めてきたというところである。また、この事業を成功させるために、地域の皆さんの協力をいただきながら進めるよう実行委員会として取り組んでいこうと考えているため、大きな芸術関係の専門業者に委託するような形は考えていない。今後、予算が成立した後に、しっかりと皆さんに説明して、取組を進めていきたいと思っている。

**【中澤会長】**

他に質問はないか。

**【増田委員】**

実行委員会方式というのはわかった。これを見ると、おまかせに見えるが、実行委員会が暴走しないための防止策をどう考えているのか。もう一つは、事業内容で参加型のアートイベントとあるが、誰が参加するのかが明確ではない。この参加者は市民なのか或いは県民なのかそこら辺の範囲を作家の作品とその参加型の部分との割合はどうなのか知りたい。もう一つは、作家だけの作品展示になると制作費は全て作家さんに支払うということになると、市民不在のものになるので、そうならないように配慮が必要ではないかと思う。もう一つは、説明が令和3年度の内になっているが、令和4年度はこういうことを考えているとか、中期の見通しはどうなのか。商店街の空き家店舗活用とあるが7月だけ使って、そのあとは知らないよというふうになってしまうのか。せっかく空き店舗を活用するのであれば、継続的に活用できるような工夫が必要かと思うが、その辺のお考えを聞かせていただければ大変ありがたい。

**【企画政策課：志賀副課長】**

実行委員会には、市も入ってやっていくので、おまかせになるようなことはない。参加型イベントの内容については、直江津の方々を前提としつつ、学校の生徒や児童など地域の方の参加を想定している。また、作品を鑑賞に訪れた市内の方々からも一緒に加わってもらいたいと思っているので、そういう仕掛けをしなくてはいけないと考えている。会場に空き店舗を活用することについては、今回は展示やイベントだけの利用の形にはなるが、いただいた意見のように継続的な利用について、事業を組み立てていく中

で考えなくてはならないと改めて思った。作家の選定や予算については、実行委員会の中で決めていく。また、将来的にこれを継続するかは、現段階でお約束するものではないと思っている。まずは今年の事業をしっかりとやって、地域協議会の皆さんも、地域の方からも意見をいただきながら、将来的にどういうふうな見通しを持って取り組んでいくのかは、実行委員会の中で精査して評価を行っていきたいと思う。

**【増田委員】**

関連で、中期的にはあまり見通しが立っていないということだが、そこはスタート時点から中期的なことを頭に入れながらやっていって欲しいと思うし、作家への謝礼がものすごく高く、経費の部分が市民参加の部分にいかないようなことになっては困る。

**【企画政策課：志賀副課長】**

それは承知している。事業費は市民参加の取組にも当たるように工夫していきたいと思っている。

**【磯田委員】**

先ほどの質問の中でお答えいただけていないところもある。予算が先か民意の合意形成が先かというような話の中で、予算付けありきみたいな話だが、この事業はどう考えても2、3か月でまとめる規模の事業ではない。1年待って皆さんと合意形成、或いはこういう方針でやっていこうよという気運を盛り上げて、予算を来年度付けるっていうような考えがなかったのかどうか。或いはコロナ禍の中で、いろんな地方からの方々が来られ、東京のアーティストも来る。遠隔の共創では、遠隔の中で、アート作品を作っているわけだが、やはり大変である。それで、意思の疎通、コミュニケーションをどうとるかということが、高いハードルだったりしている。地元の参加者の人達も、ものすごく労力を使ってやっているが、アーティストにはお金がついているが、地元の人たちは、無償ボランティアで動いているところもあり、事業のロードマップを作る、或いはタイムスケジュールを考える中で、どうして今年すぐにやらなくてはならないことだったのかが納得できないところがある。良い事業であるがゆえに、これをパパッとやってしまうこと自体が、悪いことになってしまうのではないかという気がするが、市の中での議論はどうだったのかを教えてもらいたい。

**【企画政策課：志賀副課長】**

先ほどからお話しているとおり、この地域のにぎわいを作るというのが前提にあって、そのためにどうするかを考えた時に、来年度に向けて、この事業を予算化して取り組ん

でいきたいというのがあった。この事業を成功させるためのロードマップ的なところも含めて、準備を進めている。予算が可決された後にはしっかり進めていきたいと考えており、我々も力を尽くしていくので、皆さん方からも協力していただきたい。事業実施のタイミングが早いか遅いかは、確かにご意見が分かれると思うが、市としては、コロナ禍で人の往来が減っている状況、十日町市で大地の芸術祭が実施されるタイミングなど踏まえ来年度やっていきたいというところで進めてきた。

#### 【水島委員】

アートは非常に難しいという受け取り方をしている。普通の方々が、アートと言われて、どれだけ理解ができるのか。非常に難しいことだと思っている。先ほどから磯田委員が言われることに非常に私は感銘するが、まず一つは、市のほうでプロセスをしっかりやってきた。主導権をとりながらやってきた。そこでわからないのが、主催する側として、実行委員会が、大学、商工・観光団体、市民団体で構成されている。どうしてこういう構成になったのか。アートと言ったらちょっと違うと思う。何かを作り上げて何かを売るのであれば、私はこれでいいと思うが、アートという、例えば町内だとか、市民をこの実行委員会の中に入れて、市民と一緒にやってやるということもお考えにならなかったのかどうか聞きたい。これだけ急いで本当にいいものができるのか。市民の心に伝わるようなものができるのかどうか疑問である。一般的にはアートをわからない方々がたくさんいると思う。市民に何をやっているのか伝わらない状況の中でやってしまい、後にそのむなしさだけが残るのであれば、先ほどから磯田委員が言われるようにもう少し考えを深め、時間を取った中で市民の皆さんにもお聞きになって、実施した方がよいのではないかと。私はこれをやることに反対ではない。非常に大事なことだと思うし、やることには敬意を表す。もう少し練られて、お考えになられたらどうなのかなと感じている。

#### 【企画政策課：志賀副課長】

実行委員会のメンバーについては、これから詰めていこうと思うので、貴重な意見をいただいたと感じている。具体的に書かなかったのは、これからの調整を踏まえているところがあり、資料では市民団体などとまとめてしまっている。いただいた意見で反映できるところは、反映していき、市民の皆さんに参画していただくため丁寧に進めていきたいと思っている。成果のあるものにして欲しいというご意見を十分肝に銘じて進めていきたいと思う。

【中澤会長】

細部にわたって決まってない。これから決めることなどでお話できないというようなことがわかった。

【丸山委員】

おそらく、来年度やろうとしているのは、この5番のところに書いてあるが、来年度に開催される越後妻有アートトリエンナーレ・大地の芸術祭と引っかけて、ここに来られる人を何とか上越に呼び込もうという思惑があったのではないかと思うが、今現在どんな連携を考えているのかと、この期間だが7月下旬は、祇園祭に引っかかるか引っかからないか、そこだけ教えてほしい。

【企画政策課：志賀副課長】

地域の取り組みについては、十分配慮していきたいと思っている。今、お話があったとおり、大地の芸術祭は3年に1度の1番大きい年であるが、大地の芸術祭の実行委員会に入るようなことは考えていない。上越市の取り組みと大地の芸術祭の取り組みをそれぞれ実施しつつ、お客を双方に送り合うとか、情報発信する時に一緒に行くなど、具体的なやり方を十日町市と詰めている。ただ、向こうは実行委員会が既にあるので、3年ごとの取り組みなので動きや情報発信の進め方が早い。我々は予算が決まってからということになるので、やれる範囲は限られてくるかもしれないが、十日町市とも内容を検討している。その中でいろんなアイディアを出しながら、仕掛けていきたいと思っている。

【中澤会長】

くらしの美術館実行委員会準備会がやってきた今年の直江津アートプロジェクト事業と今説明のあった事業との違いがわからない。私は、大きくしただけではないかなというふうにはしか聞こえない。その辺がわかったら教えていただきたい。

【林委員】

先ほど志賀副課長からお話があったとおり、地域の人からの見え方は同じように感じていただくとところがあると思う。よりまちを巡るとかまちの魅力をより知っていただくという部分で、コンセンサスとして上越市に大きく取っていただいて、よりまちを巻き込んだアートの取り組みというのが説明になるのかと思っている。

【田村委員】

やはり切迫感が非常に強くて、本当に7月下旬からやれるのかどうか疑問である。事

業自体は反対していない。もう一つは、コロナ禍の中でなかなか周りから来る人がおられない。7月にワクチンが行き渡るかどうかまだわからない。それなのに本当にあと3か月で予算を執行できるのか非常に疑問に感じている。直江津の人にとってはいいかもしれないが、祇園祭は7月の初旬から準備に入らないと間に合わない。そういう状態の中で巻き込むことができるのかも含めて、私は疑問に感じる。

#### 【古澤委員】

この事業の対象者として、直江津地区の住民の年齢層に幅広い方々から楽しんでいただけるような企画、高齢者にも気に入られるような取り組みをしていただければ、皆さんの関心も深まるだろうし、期待感も深まるのではないかと思うので、その辺の企画もぜひお願いしたいと思う。

#### 【町屋委員】

林委員の話を聞いて、自分の中で落とし込もうと思うと、例えば芸術に対するいろいろな取り組みをされる中の一つのコンテンツとして、我々が当初思っていたその遠隔の共創もある。ただ、他にもいろんなものがある。妻有もそうだが、いろんなものがある中の一つのコンテンツとして、周りを巻き込んだその仕掛けづくり的部分と思ったほうが受け取りやすいのかと思うが違うか。

#### 【企画政策課：志賀副課長】

予算を公表した時に、地域活動支援事業との取り組みの違いについての質問が多かったので、それとこれは違うということをもっと説明させてもらった。今年度の地域活動支援事業によって、アートという切り口でまちを見つめ直すというものが芽吹いてきた。市としてもアートを題材にまちの方々が関わっていただけるような賑わいづくりの仕掛けをするという、そのようにご理解いただければ、大変ありがたいと思っている。

#### 【町屋委員】

その解釈が間違っていないのであれば、とてもわかりやすい。地域活動支援事業では、例えば地域を巻き込んだ大掛かりな回遊性であるとか、何千万円の規模の事業は絶対無理である。そういう部分も含めて、行政は後押し的にやってくださったと思えば、我々も理解しやすい。祇園祭とかぶったからといって、否定するつもりはないし、できるのであればすごいと思う。それで、近い十日町ですら直江津に足を運んだことのない人がいっぱいいるのであれば、たまたまそこに来た人たちにそれを知ってもらうだけでもすごいことである。ただ、コロナ禍で今年も祇園祭ができるかどうかと言っている中で、



大英断でもそれをやってくだされれば、逆に我々も、祇園祭を中止にする言われもない。こういうイベントもあるのだから、できると思えば逆に乗っかって、まちとしても祇園祭があるから参加できない訳ではないし、やってくださることは直江津としたら本当にありがたい。3か月だと本当に足早で、おいてけぼりになるような気がする。ただ、子どもたちでも何でも巻き込んで、やってくだされれば、どうこう言うつもりはない。

**【中澤会長】**

事業そのものに対しては、そんなに否定的な意見がないと思う。ただはっきりしないので、いずれははっきりした時点でまた教えてほしい。

**【経営企画課：志賀副課長】**

実行委員会を作る時もそうだが、これから今いただいた意見も踏まえて仕掛けていきたい。

**【水島委員】**

これはもう出た以上進むわけだが、自己満足的なものではなく、この辺に配慮したアピールできるようなネーミングをぜひお願いしたい。

**【中澤会長】**

他に質問を求めるがなし。

次に【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

**【小池係長】**

- ・資料No.2 「地域の課題について」に基づき説明

2月27日の一般住民対象のまちづくりを話し合う会で、4つの班に分かれて、いろいろな話題について話し合っていた。雪対策や少子高齢化、海岸線の環境問題等様々話題が出た。

本日は、町内会長との意見交換会や今年度の取組全般を含めて、皆さんから感想でも、今後の進め方でもいいので意見交換していただければと思う。

**【中澤会長】**

町内会長協議会との話もあったし、この間のまちづくりを話し合う会も町内会長が大分ダブっていて、同じような話も出たが皆さん参加されていた。また、気のついたことを一言ずつお話いただいて、できれば来年度こういう話を中心にやっ払いこうと今日決められればと思っているが、とりあえずこの間までに出た話の中で記憶に残っている、或いは来年度こういう話を中心にやっ払いこうとか、そういうことを順番にお話いただ

ければと思う。

#### 【田村委員】

昨年は直江津地区町内会長協議会、五智地区町内会長協議会で今年に入って一般の住民の方、そして今回、市民団体の皆さんといろいろとお話を聞いて、非常に感銘を受けたのは、町内会長も、住民のことをよく知っていて、いろいろな話が出された。一般の人も、我々がちょっと考えなかったようなことも話された。いろいろな角度で話されたり、どうやったら解決できるのか案を持ってきたり、そういう話ができしたのは私どもにもいいヒントになったかなと思う。今後も続けていったほうが、より地域協議会が市民に目を向けるチャンスかなと思う。

#### 【林委員】

私は、地域住民の方々が来ていただいた会には参加できなかったが、内容などを拝見させていただくと、町内会であれば次を担う方々が少ないというのが共通の課題になっているので、そのことに対して、地域協議会や市のほうで、フォローやアプローチがどうできるのかなと思った。私自身が思うこととしては、朝市なども私が勤務している会社でも出店をさせていただいているが、地域を巡る上での拠点であったり、地域の魅力をどう外に発信するであったり、それを磨いていくことが重要になるのかと思っている。例えば朝市であれば、課題はどういったところがあって、どういうふうに進んでいくのかという、町内会の方であったりこういった地域の方々は、私達が気づけてない、いい案もお持ちだと思うので、そういった案を集約できる場に地域協議会もなれば、もっと地域住民の方々にとって役に立つことができる場所になるのかなと思っている。

#### 【古澤委員】

地域の住民の方々が、何か楽しみながら、全員参加するのはなかなか難しい。どうしても家に閉じこもっている人が多いということで、三八朝市周辺まちづくり協議会主催で、カラオケ大会があるが、町内によっては本当に沢山参加される人もいるが、私たちの声もかけ方も悪いが、なかなか集まらないという部分もある。だから横との連携をこれから町内会等々通じながら活性化を図っていったらいいのではないかと思っている。とにかく賑やかになれば、皆さんが楽しんでいただけるということになるので、そういったものを、着々とやっていったらいいのかなと思っている。

#### 【増田委員】

幅広く意見を聞くことができたという点では、大変よかったと思う。特に地域協議会

が開かれているというイメージを持っていただいたのは非常によかった。今後、地域協議会だけで考えるのではなく、参加者にこの先を一緒に考えていただく仕組みを作っていったらいいのではないかと思います。そこから先は工夫である。

#### 【町屋委員】

増田委員の発言を聞き、さすがに丁寧におっしゃるなと思っている。これと裏表になるかもしれないが、本当にいろんな意見が出たことはいいことだと思う。ただ、どうしても町内会長をお呼びするとそれは各町内で共通の悩みなので、町全体としての悩みとして間違いはないが、例えば町内会の後継者不足という部分に関して、それをここでどうにかしようという問題とは違うかなという部分がある。そのほかに例えば環境の問題であるとか、景観の問題であるとか、高齢化問題という部分での、ここで話し合うべき問題と、そこにはちょっとそぐわないかなという部分もあるのかなと思う。いろんな人の意見を聞くのは全部参考にはなるが、ただ全部わかりましたというのは、議会の陳情じゃないので、共感はできてもここでできること、できないことをちゃんと分けなければいけないのかなと非常に思う。毎回、町内会の人材不足云々という話は出る。でもそれはここでどうにかしようとは、働きかけができないわけじゃないのかもしれないが、ここでどうこうする話とは違うよねというのは非常に強く思うところがあるので、逆に言ったら、いろんな問題の中から自分たちの重点的に取り組む、向き合うべき問題をちゃんと精査していいかなければいけないと思う。

#### 【丸山委員】

直江津地区町内会長協議会と、住民の方達の両方の会に出席したが、やはり長年、直江津に住んでいる方だなと思った。いろんな今の課題をいろいろと教えていただいて良かったなと思っている。もし来年やるのであれば、今の現役世代がどのようなことを問題としているのか、課題としているのか、そういったものもちょっと聞いてみたいなあというのがある。また先輩たちとは違った悩み、問題を持っていると思っているので、ぜひお願いしたい。

#### 【水澤委員】

毎年、なかなかいろいろなことが解決できないという、私自身ジレンマがあるが、今年はいいのか悪いのか、大変な大雪になり、いろいろお話聞きすると、皆様お互いに助け合わなきゃいけないという話が聞けたのが、非常に心強く思っている。今後とも、大雪でなくても、毎年そういうことがあればいいなと思っている。

## 【水島委員】

会議の中に出させていただいて、少し違和感を覚えた。身近な問題に直面しているから、例えば雪かきがどうだとか、自宅の前の側溝がどうだとか、これはこれで、各町内でいろんなことが起きているわけだから、それを出すのは、それはもう必然かもしれない。しかしそれを聞いて先ほど町屋委員がおっしゃったように、どういうふうにして、この場で結論を出していくのか、それは出ないわけである。それが1回ならともかく毎回出てくる。出すことが悪いことではない。出すことはいいことだが、それを結論づける時にどうしたらいいかというのはちょっとわからない。その中で、人口のことがよく出る。例えば、町内会で後継者がいない。やってくれる方がいない。うちの町内はもう駄目だというようなお話も、会長も議員のある一部の方がそうおっしゃるが非常に切実なことをおっしゃられていた。これは必然である。県全体で相当数の、10年間で30万人の人間が減って、上越市でもやはり10年間で1万人の人間が減っている。その中で、各町内は当然のごとく人員が減ってきている。その減った中でどういうふうに町内会活動をまわしていくか。ただ、そういう大きな問題がやっぱり出てくるわけである。それを皆さんと話ができればこれからどうしていくか、本当にその中でよく出てくるのが、女性の方に、若い方をお願いをしたい。しかし、若い方もそれから女性の方もやっていただけない。それはもったもだと思う。そういう土壌がないのだから。その土壌を作るために、やっぱり若い方にもし任せるのであれば、年配の方々は、一切口を出さないとか、そういうものがないと若い人は育たない。女性に任せるのであれば、今までこうだったのだと発言に対して、厳しい言葉を言うことは必要かもしれないが、それだけを言っていたら女性は育たない。そういう土壌を作っていないと、多分、やり手が減ってくるのではないかと私なりに考える。私たちのこれからの将来を考え、そして町内の将来を考えたときに、そういうことを現実のものとして捉えていかないと、非常に厳しい状況にどんどん追い込まれてくるのではないかと思った。

## 【田中実委員】

私もこちらの方へ来てまだ1年経っていないが、私たちの町内の班で実際12、3軒しかないが、近所のお年寄りの人にいろいろ話をするが、もう腰は痛いし足は痛いしで出るに出られない。たまたま、ピーターで除雪していたが、2、3軒離れたところからわざわざ歩いてきて、家の玄関も悪いけど除雪してくれないかと頼まれることも実際にあった。私も、何とか地域住民の方といろいろお話ししながら、地域協議会委員をやって

いるので、何かいろんなことあったら教えてほしいということを行っている。今朝だが、テレビ番組で、学校のPTAの役員決めをすると、なかなか今の話の町内の役員と同じで、なり手がいない。いろいろ考えてどうするかというとボランティアだと。ボランティアで、全体的に参加者を募ってやってみたら参加者も大勢きたという番組をやっていたので、地域の皆さんとの交流は、やはり町内の役員も、今回のPTAの役員も実際ボランティアでやっているわけだから、何とか地域住民との繋がりを持っていきたいと私自身は思っている。

#### 【竹田委員】

皆さん、問題意識を持って参加していただいたのだと思う。内容を見ると、取り組める課題とそうでない課題と、いろいろとあるとは思っているのだが、せっかくいただいた意見なので、無駄にならないような活動を進めていければと思う。

#### 【坂井委員】

今回両日とも参加できなかったが、この意見を見させていただくと本当に皆さんいろいろ考えていらっしゃるのだなっていうのがよくわかった。今後もこういう会があった方がいいと実感した。

#### 【久保田委員】

感想ということで述べさせていただく。話し合う会が町内会長、一般住民、それから団体の方対象にあったが、今後もできれば続けたほうがいいのではないかなと思う。出てきたご意見等をどのように、具体的に我々は取り組んでいったらいいのかを考えさせられた。内容的には、例えばまちづくり構想ということから、いろいろと問題点、こんなことも表していただいたが、そこから発展して都市計画に関わるくらいの構想まで、大きな意見が出てきたとも思う。それから、今回の住民の方の中では、災害に対する共助を痛感したということが挙げられていた。普段の防災関係でどの町内でも取り組んでいることで、やはり自助、共助、これを盛んに口にはしているが、なかなか実施の段階はなかった。災害はそんなになかったが、今回の雪害で実現することができたという意見があった。これが広がっていくといいと感じた。

#### 【今川委員】

今までの話し合う会の中でお話いただいた方は、大体自分たちの困っていることを言っている。直江津の町を利用する人とか、通行する人とかのことはあまり聞かれない。言っていることは今まで何回も話し合ってきたこととあまり変わらない。市と相談する

べきなのに、私たちに言われても困るところもある。今年は大雪なので、私の家の近くは通学路になっている場所があるがそこは毎年除雪しているが、今年も近所の人に手伝ってもらって、綺麗になるまで1週間ぐらいかかった。私は直江津に来て9年が経つ。直江津区地域協議会に入ってから除雪を始めた。子どもたちのために、自分が通るだけの道ではない。その辺を何とかしたいなと思っている。

#### 【磯田委員】

直江津の住民、或いはその各団体との話の中でいろいろな意見が出てきている。それをどう深掘りするかをどこのステージでやるかだが、自主的審議の中で大分前から直江津まちづくり構想と言いつつ、右往左往してきて、なかなか体系的な或いは全体像を含めた視座に立った議論は難しいのかというのが印象である。その中で、議論をするにしても、例えばこういうところから出てきた課題を一つ拾い上げて、それをもう少しこの場で深掘りする、或いは、住民の人たちに我々と一緒に議論するテーマをある程度絞って直江津区地域協議会の会議の、例えば後半は必ずそれをやるとか、今日はこのテーマでとか、そんなふうに少し収れんしていく方向での議論とし、或いはそれを誰がどうするかとか、プレーヤーになっていくっていうのは地域協議会では難しい話なので、それを誰が担っていくのかとか、或いは行政にどういうふうをお願いするのかとか、そういうことも含めての議論をこの場でしていったら、それを住民の人たちと共有するとか、或いはこう考えたのだけどどうかねみたいなのを提案していくというような、自主的審議の仕方が、この場では可能性があるのではないかなと思うようになった。

#### 【田中美佳副会長】

今回出席して思ったことは、女性とか若い人がなかなか参加せず、今回は私だけで、地域協議会委員をなぜやられているのかも聞かれたので、それほど、深い意味がなくやらせていただいたが、いろいろ勉強させていただいて、とても勉強になっている。先ほど林委員も言われていたみたいに、毎回集まると言われることは人が足りないとか、やってくれる人が少ないとか、こういう問題があるといっぱい出てくるが、なかなか解決することが本当に難しく、そう思うのでやはり若い人の力が必要かなと私も思った。若い人たちにいろんなことに興味を持ってもらえるような、発信をしていけるような、方法を考えられたらいいのかなと思った。この前も、町内会報を出されてクリスマスのイルミネーションを町内でやって、とてもよかったとか、周りの人たちと、交流ができたというお話もいただいたし、文句ばかり言っても何も一つも始まらないので、自

分たちが考えて、一つ一つやってみた。それで良い結果が出たという話を聞いて、なるほど思ったりして、何か楽しいこととか、発信できて皆さんに興味持ってもらえているんなことで町内のことも地域協議会のことも、少しでもそうなればいいのかと、今回参加させていただいて思った。

#### 【青山副会長】

直江津のまちづくりを話し合う会とか、直江津区地域協議会の中からも、宿題が幾つか残っている。例えば、直江津屋台会館の雨漏りの補修の進捗状況はどうなっているのか。町内会長との話し合いの時にもあったが、大神宮の中央保育園を6月から壊すことについては、まだ我々のところに話がきていない。その辺はどうなっているのか。古城小学校の場所に福島城を愛する会の展示室があるが、これに関してはこの直江津区地域協議会でもいろいろと話し合った経緯もあるし、見てきた経緯もある。古城小学校がなくなった時にあれはどうなるのかも心配である。古城保育園の跡地はその後どうなるのかも、諮問した我々としては追求していかなくてはならないと思っている。忘れてはならないことだと思っているので、今後の地域協議会の中で話を聞かせていただければいいかなと思っている。

#### 【中澤会長】

審議の仕方は難しいと感じた。非常に理論的な、抽象論も含めて話をされる人もあれば、すぐ身近な具体的な話からされる人もあり、それを好まれる人もあり、俗に言う、鳥の目からとらえるか、虫の目からとらえるかということだがその辺を踏まえて地域協議会でこれからどうするかだが、これは実は10年も前からやっていることだが何か一つに絞ってという形をとるか、まず、どうやって審議していくかで、相当かかったりする可能性もあるが、とにかく話し合いの場を持ってよかったということだけは確かである。それでダブって出てきている人もいる。直江津以外の人でも、話し合う会で、前に出たらよかったのでまた来たという人もいた。それから、いろいろな問題はあるが、やはり人と人との関わり方という話になると非常に感動する。困っているときに、隣に助けてくれる人がいる幸せという話を聞いたときに、それが原点ではないかと、人間の絆というのか、コミュニティーとしての町内会のあり方などにも発展していくし、日頃の自分の生き方にも繋がっていくのだなあと、そういうことは日常的にはあまり感じなかったが、言われて初めて気づくところがあるので、そういうことも含めて、人間と人間が話し合うことは大事なのだと思った。4月から、自主的審議ということで、こういう

ふうに審議しようというような、どういう審議の仕方が良いか、4月の地域協議会までに、或いはそれを通して、お考えいただければと思う。この議題はここで今日は終了とする。次に、その他について事務局へ説明を求める。

**【小池係長】**

直江津屋台会館の件で、担当課に聞いた情報を口頭でお話をさせていただきたい。昨年直江津区地域協議会でも視察に行ったり、直江津地区町内会長協議会で市へ改修の要望を出したという動きがあった。まだ3月議会中だが、得た情報によると、改修工事を行うことで予算を計上しているおり、スケジュールとしては工事着手が令和3年6月から7月末ぐらいまでに改修工事を行うという予定である。工事期間中1週間程度、休館期間を設けるような予定もあるということである。先ほどの、企画政策課の説明にあったアートプロジェクトも直江津屋台会館を使用する予定になっているが、そこに影響が出ないように、最大限配慮して改修を進めていきたいということである。それから、同じく3月議会に予算を計上しているもので、上越市総合体育館が老朽化により改修工事を来年度予定している。それに伴い、施設も休館しなければいけないということで、現在、総合体育館で合併前上越市の各体育施設の受け付け業務を行っているが、令和3年6月から令和4年3月末まで事務局を直江津屋台会館の事務室に移転して業務を行いたいということで予定を進めている。担当課はスポーツ推進課であるが、直江津区地域協議会の皆さんにもご了解いただきたいということで連絡があったので、報告をさせていただく。

**【中澤会長】**

次に、日程について事務局へ説明を求める。

**【小池係長】**

- ・次回地域協議会：4月20日（火）午後6時30分～

**【中澤会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他



別添の会議資料もあわせてご覧ください。